

スラバヤ市における社会的課題の抽出と対応策提案に関する産学連携グローバルワークショップ

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2021年10月23日 ～2021年11月27日	日本	スラバヤ工科大学	<ul style="list-style-type: none"> 環境システム学科 システム理工学専攻 学部2年生 学部3年生 学部4年生 修士1年生 	(芝浦工業大学) 学生11名、教員5名、 職員2名 (津田塾大学) 学生6名 (スラバヤ工科大学) 学生24名、学生バイト4名、 教員6名、職員2名	中村 仁(環境システム学科)、 石崎 浩之(マレーシアオフィス)、 齋田 朋子(環境システム学科)、 増田 幸宏(環境システム学科)、 鈴木 俊治(環境システム学科)



図1 新しい横断歩道のデザイン

GTI会員企業である株式会社IHIおよびアジアパシフィック地域統括会社(IHI Asia Pacific PTE. LTD.)と連携して、スラバヤ工科大学(ITS)と産学連携gPBLを実施した。テーマは、インドネシア第2の都市であるスラバヤ市における社会的課題を抽出し、その対応策を検討、提案することである。プログラムは、2021年10月23日～11月27日の毎週土曜日に計6回、オンラインで実施した。SIT11名、津田塾大学7名、ITS24名の計42名の学生を1グループ5～6名で構成される8つのグループに編成した。

4つの大きなトピック: 1. Low Carbon Society: Dependency on Grid Electricity, 2. Smart Urban Mobility: Online Transportation System, 3. Infrastructure & City Planning: Infrastructure for People with Disability, 4. Disaster Prevention: Flood Threats and Water Resilience に関して、それぞれ2グループを割り当て、各グループが特定のテーマを選んで現状把握と分析、課題の抽出、対応策の検討と提案、報告を行った。

現状把握では、スラバヤ市の4つの行政機関(Surabaya City Water Company, Surabaya City Council for Public Works, Surabaya City Council for Sanitation and Green Open Spaces, Surabaya City Council for Transportation)によるレクチャーと質疑応答も実施した。また、IHIからは8名の専門家、ITSからは6名の教員、SITからは5名の教員が関わり、学生にアドバイスを行った。

最終発表会においてベストグループに選定された2グループは、12月9日開催のGITコンソーシアムシンポジウムにおいて成果を発表した。SITと津田塾大学の学生に対しては、プログラム開始前に、関連する資料を読み、必要な知識や英語表現を習得する事前学習を計4回実施した。

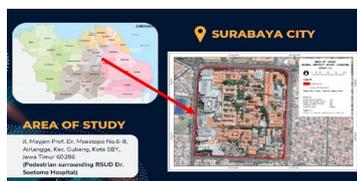


図2 対象エリア: グループ5



図3 重要な問題点



図4 身体障がい者支援アプリ



図5 視覚音声サイン



図6 歩道と車道の照明

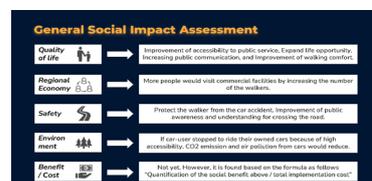


図7 社会的影響評価